

1. 事業構想評価

(1) 事業構想「目標を定量化する指標」の達成状況

目標	メニュー	指標	開始年度	目標年度	達成状況															備考	
					1年目(開始年度)			2年目			3年目			4年目			5年目				
					目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率		
安定供給体制の整備推進	間伐材生産	間伐材生産経費(円/㎡)の減少率		R2																	
	高性能林業機械等の整備	労働生産性(㎡/人・日)の増加率			11%	57%	518%														
木材利用及び木材産業体制等の整備推進	木材加工流通施設等の整備		地域材利用量(㎡)の増加率	R4	R4	1%															
	木造公共建築物等の整備	木造化(補助率1/2以内)	事業費当たりの木材利用量(㎡/百万円)																		
		木造化(補助率15%以内)																			
		木質化																			
	木質バイオマス利用促進施設の整備	未利用間伐材等活用機材整備		事業費当たりの木質バイオマス利用量(㎡/百万円)																	
		木質バイオマス供給施設整備																			
		木質バイオマスエネルギー利用施設整備																			

(注)

- 1 「達成状況」には、各年の目標値、実績値及び達成率(各年度の実績値/各年度の目標値)を記載すること。
- 2 報告年度については、要領第6の1に基づくこと。
- 3 各メニューの達成状況における、目標年度の目標値には下線を引くこと。
- 4 目標値及び実績値のうち、該当がない年度は、「-」を記入すること。
- 5 天災又は自己の責に帰さない事由による火災等が理由で、達成率が著しく低いと判断されるメニューについては、本報告における評価対象外とする。  
なお、該当するメニューについては、本報告に準じ別途達成状況表を作成することとし、その理由を記載すること。

2 . 全体評価

(1)全体指標の達成状況

目標	メニュー	全体指標	現状値			目標値			目標年度の報告			備考
			数値	単位	年度	数値	単位	年度	実績	達成率 (%)	年度	
安定供給体制の整備推進	高性能林業機械等の整備	素材生産量(目標値の増加率)	291	千m3	R2	346	千m3	R7	—	—	—	
		素材生産性(目標値及び目標値の増加率)	4.7	m3/人日	R2	5.6	m3/人日	R7	—	—	—	
		経営計画の策定率(目標値)	42	%	R2	54	%	R7	—	—	—	
森林資源の保護	森林資源保護の推進	森林病虫害の駆除率	63	%	R2	70	%	R3	61.5	87.9	R3	R4.10.28 R3実績報告とR3被害報告から
		抵抗性マツの植栽本数	3,653	本	R2	3,000	本	R3	910	30.3	R3	R4.10.28 R3実績報告とR3被害報告から
	森林環境保全の推進	森林保全巡視指導員の資質向上のための研修の実施	2	回	R2	2	回	R3	3	150.0	R3	R4.10.4 地方事務所担当から聞取
マーケティング力ある林業担い手の育成	事業全体	素材生産量の向上(目標値)	291	千m3	R2	302	千m3	R3	288	95.4	R3	R3素材生産量調査より
	人材の確保・育成・定着	新規就業者数	52	人	R2	57	人	R3	35	61.4	R3	令和4年3月23日 森林・林業振興局調べ
	労働安全の確保	労働災害発生件数(減少率)	13	件	R2	9 (-30.8%)	件	R3	14 (7.7%)	155.6 (-25.0%)	R3	令和4年7月22日鳥取労働局会議資料、令和4年4月12日鳥取労働局報告資料より
林業経営体の育成	林業経営体育成対策(林業機械リース支援)	素材生産量(目標値)	291	千m3	R2	302	千m3	R3	288	95	R3	R3素材生産量調査より
		素材生産性(目標値)	4.7	m3/人日	R2	4.9	m3/人日	R3	5.1	104	R3	

(注)

- 1 全体指標、現状値、目標値、単位については、事業計画の内容とすること。
- 2 達成率は、目標年度の実績／目標値とすること。
- 3 実績については、その調査方法と調査年月日を備考欄に記載すること。(別様可)
- 4 報告年度については、要領第6の2に基づくこと。
- 5 行については、適宜加除すること。

(2)総合評価

計画主体の評価及び今後の課題とその解決策

目標	本事業により実施した目標の分析とその評価	今後の課題とその解決策
安定供給体制の整備推進	—	—
森林資源の保護(森林環境保全の推進)	・森林保全巡視指導員による巡視によって、不法投棄、森林病害虫被害の早期発見、山地災害の未然防止等に寄与した。	・引き続き、巡視指導員による巡視を継続することにより、不法投棄や森林病害虫被害の早期発見、山地災害の未然防止等に努める必要がある。
森林資源の保護(森林資源保護の推進)	・前年度に比べてナラ枯れ被害は6割5部程度減少し、目標達成に向けて重点対策区域(大山山頂から10km圏内)を中心に立木くん蒸等の駆除を実施して駆除率は61.5%となった。 ・抵抗性マツの植栽を順次計画的に実施して順次保全松林の更新が図られているが、新型コロナウイルス感染症の影響で活動団体の活動が低調となり、植栽本数が目標に達しなかった。	・引き続き、ナラ枯れ被害のまん延を防止するため、継続的かつ集中的な駆除、予防対策を講じる必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症の拡大状況を見ながら、保全松林を守るための抵抗性マツの植栽を促進するとともに、駆除と予防を組み合わせた防除対策を継続して講じる必要がある。
マーケティング力ある林業担い手の育成	・素材生産量は現状地のほぼ横ばいだが、特に新規就業者数と労働災害発生件数は目標を下回った。	・労働安全のサポートをより一層進めて安全・安心な労働環境を整備し、入社したいと思える魅力ある林業事業体を育成する。
林業経営体の育成	・林業機械を導入したことで作業効率を高めることにつながり、結果、概ね目標を達成することができたと思われる。	・概ね目標を達成できたものの、施業地の奥地化への対応が課題であることから、奥地化に対応できる作業システムも検討しつつ、引き続き、林業経営体を育成していくことが必要である。

(注)

- 1 目標ごとに事業評価を分析したうえでその評価について記載するとともに、事業実施上明らかとなった今後の課題とその解決策を記載すること。
- 2 報告年度については、要領第6の2に基づくこと。
- 3 本表には、目標ごとに評価等を記載すること。
- 4 行については、適宜加除すること。